



JICA 開発大学院連携

JICA Development Studies Program (JICA-DSP)



背景・趣旨

日本は、非西洋から先進国となった最初の例であり、伝統と近代を両立させ、自由で平和で豊かな民主的な国を作り上げた、途上国の発展のベストモデルの一つです。

また、日本が政府開発援助（ODA）で重点的に支援してきたアジア諸国は目覚ましい経済発展を遂げており、この成功の経験を基に、現在他の地域にも援助を積極的に展開しています。

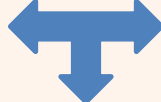
こうした経験や知見から、日本は世界の中で開発学をリードする国となり得ると考えています。

「JICA開発大学院連携」では、開発途上国の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後の援助実施国（ドナー）としての知見の両面を学ぶ機会を提供いたします。

本構想は、日本政府が推進する「明治150年」関連施策の一つとして発足しました。



連携



国内の大学

日本の開発経験及びODAの知見に関する講義を含むプログラムを提供



概要

「JICA開発大学院連携」は、趣旨に賛同する国内の大学とJICAが連携し、開発途上国から来日した人材が、大学の学位課程の中で専門分野の教育・研究に加え、日本の開発経験(日本の近代化の経験や戦後のドナーとしての知見)について英語で学ぶプログラム(*)を提供します。

これにより途上国の人材が、体系的に日本を理解し、帰国後に母国の発展に効果的に役立ててもらおうことを狙っています。

さらには、日本で学んだ途上国の人材が、母国で、知日派・親日派のトップリーダーとして活躍し、両国間関係が中長期的に維持・強化されることが期待されます。

また、途上国からの優れた人材の受入を通じて、国内の地域活性化や大学の活性化、日本でのグローバル人材育成などの副次的効果も狙っています。

(*)「JICA開発大学院連携プログラム」

プログラムの内容

【日本理解プログラム（共通プログラム）】（下図①部分）

日本の開発経験の理解促進のための日本の政治・行政・経済・社会等の現状について、大学の枠組みを超えて広く提供するためJICAが協力大学と共同で実施する短期集中型（5日間程度）のプログラムです。

(*）日本理解プログラムの受講は任意。受講可能人数は順次拡大予定。

【各大学におけるプログラム（個別プログラム）】（下図②部分）

以下の4つの領域において、JICA開発大学院連携に参加する大学・研究科の学位課程の中に設置される近代日本の開発経験（日本自身の開発とODAとして他国に協力した経験を含む）に関する授業科目です。専門分野における日本の開発経験等をより深く理解することを狙いとしています。

JICA開発大学院連携

① 日本理解プログラム 共通プログラム

- JICAが協力大学と共同で実施する短期集中型のプログラム
- 日本の近代化経験とその背景・特徴、戦後ドナー経験等をバランスよく伝えることで体系的な日本理解を促進

領域

政治・法領域 政治、法、行政等

経済領域 経済、金融、産業開発、 経営等

社会開発領域 教育、保健、農業経済、 国土開発、環境、防災等

科学技術・イノベーション領域 理学、工学、医学、農学、も のづくり、IT等

② 各大学における プログラム 個別プログラム

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

③ 各大学の 既存の修士課程

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

● 大
▲ 研究科

受講対象者

JICAの人材育成事業により来日する開発途上国の人材を対象とします。受講対象者は①②のいずれかまたは双方を受講します。

なお、「各大学におけるプログラム」として提供される日本の開発経験及びODAの経験に関する講義については、JICA開発大学院連携プログラムを提供する研究科に在籍する他の留学生及び日本人学生の受講も推奨します。日本との双方向の学びによる新たな価値の創造と学生・教員との相互理解促進を図ります。



独立行政法人 国際協力機構

JICA開発大学院連携推進室

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-4-1

竹橋合同ビル

TEL: 03-5226-6900

E-mail: tagua@jica.go.jp